

保育おなが山

神奈川県保育会々報 第6号 1968.7.10 発行

15年以上勤続者109名に感謝状

第2回神奈川県保育大会概況報告

* * *

「今年は国家的に明治100年保育所関係では児童福祉法施行20周年にあたる。さまざまな社会変動にともなう保育制度の改定の中で、どのような役割を果たしてきたか。今日までの保育所の歴史を回顧するとともにこれからの保育活動のあり方を明らかにするため本大会を開催し、さらにここでの成果を関東ブロック大会(6月29日～7月1日長野市)及び全国研究大会にまでもりあげようとするものである。」

この趣旨によって第2回の神奈川県保育大会が青葉薫る5月18日神奈川県社会福祉会館に於て

神奈川県保育会同保母会主催によって開催された。県児童課並びに県社協の大きな協力を得て県内施設の園長保母とくに小田原市保育所保護者会連絡協議会の幹部の方々も参会され300余名の関係者によって大会が開かれた。定刻10時30分安部委員司会のもとに露木副会長が開会を宣し、参加者全員で保育の歌「花のおさなご」を斉唱、望月、柳瀬両会長の主催者としての挨拶につづいて県民生部長と県社協事務局長の祝辞を受けたあと今年初めての行事として保育関係者の県内保育施設に15年以上勤続者109名に感謝状と記念品が授与された。尚藍授褒章の富田平塚保育園長と全

も く じ	
第2回神奈川県保育大会概況報告 —15年以上勤続者109名に感謝状—	1
加重負担にあえぐ市町村 —県保育大会第1分科会より—	2
注目された川崎の給食研究 —県保育大会第2分科会より—	3
特集「一筆交換」 —気楽に、まじわりをふかめるために—	5
編集雑記帖	11

社協会長表彰の長谷川国府津保育園長両被表彰者に県保育会としての喜びの記念品も授与された。

研究方法の説明と部会協議の各議長、助言者等の報告があり、第一部を終了した。午後は二つの部会に分れそれぞれの研究テーマに基き常日頃考えていることや、悩み、苦しみ希望、共感などを卒直に持ち寄って真剣活発な研究討議が開始された。

(第1部会)

助言者(八木・宮台両県係長)

～研究テーマ～

① 地方自治体に対する保育所の財源確保活動について

主論者

平塚市福祉事務所施設係長

二見 要三 氏

小田原市福祉事務所児童係長

井上 雅夫 氏

淵野辺保育園長

松岡 謹 氏

② 保育所の環境整備について

主論者

わかたけ保育園長

七尾 善之助 氏

(第2部会) 助言者(泉順・木下雲緞・望月光の各氏)

～研究テーマ～

① 社会変動に対応した保育はいかにあるべきか。

主論者

仙石原保育園長

鈴木 豊子 氏

半原保育園主任保育母

伊 従 ミサ子 氏

② 給食に関する問題について

主論者

大島乳児保育園栄養士

黒 沢 邦子 氏

3時近く研究部会を終了して総会にうつり多忙の中本大会のために尊敬し信頼する我等の津田県知事殿が来臨され、保育事業に熱意

ある理解とあたたかい親心を示された御挨拶をうけて全参加者感激の拍手のうちに知事を送り各部会の議長より部会報告があり、更に県保育会の前年度事業報告と決算、今年度事業計画と予算の報告発表があつて鈴木副会長の閉会の辞によって第2回の本大会全部の日程を終了した。閉会后ただちに関係者によって処理委員会を開き本大会の主論者全員が長野の関プロ保育事業大会に本県の代表意見として発表することを決定した。

(庶務委員 安部龍藏)

加重負担にあえぐ市町村

県保育大会第1分科会より

児童福祉法施行20周年を記念して5月18日(土)県福祉会館講堂で昨年に続いて第2回の神奈川県保育大会が開かれ、保育所長、保育母等多数が参加し盛大に行なわれた。第一部の総会では永年勤続者の方々に感謝状及び記念品を贈呈し、引き続き第二部では、第一部会(保育所長・行政関係者外)第二部会(保育母)と別れてそれぞれ熱心に与えられた議題を研究討議した。

たまたま小生は第一部会の議長団の一員として、当日司会役をお任せつかったので、その報告を記させていただきます。

第一部会の議長団 望月正道先生 小生

助言者 県児童課係長 八木義政氏

” 宮台 豊氏

の各氏により議事は進められた。

(1) 地方自治体に対する保育所の財源確保活動について

これは行政担当者の側から平塚市福祉事務所施設係長二見要三氏・小田原市福祉事務所児童係長井上雅夫氏より市町村の立場から種々意見が述べられた。本来措置費は国が8割県市で各々1割づつとなっているのだが実情はなかなかそのとおりにならず、市町村の

持出しが多額になっている現状である。そればかりではなく、人件費、施設維持費又徴収金の点等国庫負担金交付基準に定める費用ではとても運営出来ないの民間の如き経営調整費等の財源を公私立施設へも平等に国・県に実施を要望する。

これには参会者一同にも異議はなく、公私一体となって保育所児童の為に協力する旨約束した。

民間施設の側からは、洲野辺保育園長松岡謹先生が施設の劣朽箇所補修及び乳児保育に保健婦を配置して欲しい旨の要望があった。

本県では厨房の改修、便所の水洗化等に各の補助が実施されているが、これは法人施設のみで個人立には適用されていない。その他改築、修理等行なっても個人立には振興資金も貸付金額に制約があり補助もない。

児童福祉法により認可を受けた施設であるのに法人立・個人立の差があるのはおかしくはないかと云う事であったが、東京都の実例もある事であり、現在の個人立は近い将来に法人化する事を目標にして欲しいとの県よりの助言があった。

又嘱託医手当も少額であり、乳児保育に保健婦をとの要望だが、これはもったいな事であり、地域の保健所の保健婦をもっと活用していったらどうかとの助言が県よりあった。

(2) 保育所の環境整備について

わかたけ保育園長七尾善之助先生より新設保育所の建設に際しいくつかの考慮点について述べられた。

まず設計の時に中々そこ迄は考え及ばない所であるが、押入れ倉庫のスペースを充分に取ると云う事である。午睡用の寝具の格納もあれば各種遊具・保育用品等の収納もある。これは各保育室の整理整頓・又保母の労力を最少限度にとどめるのにも又園児のしつけ指導にも役立つのではないが、この為出来れば最低基準の中に押入れの設置を規定する様特に力説された。

午睡の場所等も限られた面積を有効に使用

する方法として乳幼児共午睡室兼ステージ又はほふく室として一段高くしてあり、衛生的な面にも配慮されている。

次に各部屋に水呑み、手洗場を設置しており、生活指導の面でより便利に能率的に考慮してある。

便所は勿論水洗式であるが、便器に洋式を採用した。初めは園児もまごついたが、保母の指導よろしきを得てまもなく慣れて問題はなかった。

各保育室には換気扇を取付け天井にはおそらく保育所では初めてであろう扇風機を取付けた。これから夏に向かい大いに役立つ事と思われる。

普通給食室は裏側のうす暗い所が多いが、当園は一番日当りの良い場所におき衛生的な面等で充分役に立つと思う。又各部屋全部に網戸を設置した。

運動場については、ほこり、又はドロコ道になり非常に困っている路面に塩をまくとか、山砂を大量に敷くとか種々意見が出された。海岸より遠い地域ではプールも欠かせない設備の一つである。夏の水遊びは子供達が非常に喜ぶ遊びなので健康の為にも是非設置したい。

助言者の方からも押入れの点等特に今後新設される保育所には指導項目の一つに入れて行く旨お話しがあった。

第三部の総会では、津田県知事も見えられ全国一の福祉県らしいお話しをされた。

後各部会の報告があり盛会のうちに大会を終了した。

(衣笠愛児園長 加茂坂・記)

注目された川崎の給食研究

県保育大会第2分科会より

助言者 木下雲敬・泉 順・望月光氏
議長団 柳瀬・長谷川・大芝氏

主論者① 半原保育園主任保母 伊従ミサ子氏

② 仙石原保育園長 鈴木豊子氏

③ 大島乳児保育園栄養士 黒沢邦子氏

①伊従氏より先に県保母会保育内容研究会で体力の実態調査をしたが、設備と体力の関係、体力に与える影響が大きいと思われる点、又体力を高める遊具について研究調査をする事になったと話された。

ねらい

遊具と体力との関係

園庭を広くする必要性

児童の体力にともなった体育遊具の設置

方法

① 遊具の調査(県下20ヶ所の保育所)

② 児童の体格に合った遊具であるか

③ 同地正門の施設で体力=遊具の比較

調査の結果を表にし又施設の比較表を示され、又調査用紙も示された。

結びとして環境に生きた体育具の設置と保母の計画性ある働きかけによって幼児の体力を増進して参りたい以後継続研究をして行きたいと発表された。

木下助言者は家庭における食生活の分析をあそびのプログラムを考えたらどうか。

各園の園外保育をどのようにしているか。幼児体操をどのようにしているか等合わせて調査されては如何と助言された。

② 共稼ぎに対応した保育はいかにあるべきかについて鈴木氏は下郡の状況を39年40年41年の三ヶ年間の母の外労、内労の比較調査をしたと述べられた。

外労=個人店・旅館・会社・他家の手伝い

(畑仕事草取りみかんもぎ) 外交員等

内労=主婦(乳児・病人の看護) 洋裁・和裁 編物・菓子・包装・病弱・妊婦・自家営業(旅館・寮・食堂・土産物店・農業等) 又母が外労の場合の一週間に働く日数を3ヶ年間の比較で示された。

母の年齢は1位は31才~35才。2位が26才~30才 家族構成は拡大家族184軒、核家族が425軒、園児のIQは6園平均101で個人

最低60、最高141 知能テスト判定による問題児は判定対象児96名中約1/3であった。

又保護者から見た子供の性格調べを表で示されてあるが同一の子供を保母の立場から見たすがたと比較して、その対策をねって家庭と園とが一体となった保育をして行って欲しいと会場より発言があった。

木下助言者よりこの研究の場合の問題児と云うのは「問題をもつ子供の」意で解釈するべきだと助言があった。

③ 給食に関する問題について

黒沢氏は0才保育の問題・長時間保育の問題が世論を湧かしているが、このような時給食はいかにあるべきかと給食の現況を発表された。

A 0才の給食の特長

イ、ミルクのみの給食(調製粉乳の選択及使用方法)

ロ、離乳食について

離乳前期

離乳中期 献立例

離乳後記

ハ、1才以上3才未満児食について

ニ、食事時間について

B 栄養指導の方法

父母の会・調理実習・個人別母指導・栄養シリーズ

C 家庭に於ける食物調査

イ 家庭に於ける一般傾向

ロ 嗜好調査

以上について献立スライドによって懇切な発表があった。参会者一同大いに参考になった事と思う。

泉助言者より朝食のすすまぬ子供の処置についてや出された給食だけは何としても食べさせねば栄養がとれず駄目なのか等の質問があった。家庭状況を調べ、前夜おそく食物を与えぬ事、食事にしても保母の計画性のある働きかけが必要だと言う意見が会場よりあった。

望月助言者よりこのようなきめの細い献立

を調理するには、人員不足では出来ぬので給食担当者を
乳児20人に1人の給食担当者
幼児60人に1人の
幼児80人に2人の

をこの分科会として当局に要望したいとの発言に会場全員拍手して決議した。

尚大会終了後処理委員会で鈴木豊子氏・黒沢邦子氏の発表を第九回関東ブロック保育事業研究大会に提出する事に決定した。

(県保母会長 柳瀬劫子・記)

特集「一筆交換」

気楽に、まじわりをふかめるために

会報を5号刊行したあとに、こんな調子の編集でよいのだろうか、という疑問が盛り上がった。その結果、ハガキアンケートを寄せて頂くことを考えついた。往復ハガキ80枚を県内はもとより県外の方、関係機関・団体などに配布した。返信は、ごらんの如く10数枚。約18%の返信率であった。数は少ないが、そのひとつひとつは、実にその人らしい内容でよんでいて楽しい。

アンケートの質問はこんなふうである。

- 都府県・市町村が独自でおこなっている補助などの紹介
 - 地区園長会、保母会の動き
 - 夏に向っての私のプラン
 - 私のねがい(夢や今年の計画など)
 - 団体、行政、学校としての計画など
 - 私のレジャー(趣味、特技など)
 - 人事について(死去もふくめて)
 - 県保育会、保母会への提案
 - さいきんの話題や問題(トピック、美談、コボレ話など)
- (注・これにとらわれないで自由に気軽に書いてください。)

忙しいなかを、わざわざ投稿して下さい下さった方々に深い感謝を申上げるとともに、これをよんだ方々は、別の機会にアンケートを求められたら、積極的な発言をおねがいたい。編集部としても、より多くの方々の意見を反映させることへの努力は、これまで以上にする覚悟ではあるが……。(到着順に掲載した)

黒田満子(茅ヶ崎市・やなぎ愛児園)

① 年2回行ないます遠足について

今年の春の遠足はすぐ近くの柳島海岸にて蛤の地引網と云うのでしょうか、全園児父母共々に力一杯潮のかおりをすいながら網をひき、とれたての蛤の味噌汁、フライ等お母様の協力で本当にたのしい大自然の中でのびのびと過ごすことが出来、こんな近くにこんなすばらしい幸のあったことを今更ながら心に銘じました。来年も新しいお友達に経験させてあげたいと思います。

- ② 私の園では、脱脂粉乳が園児に喜ばれず色々ココア、砂糖、紅茶等混合しては飲ませていましたが、余り好ましくないので今年5月より思いきって給食費と補助金の範囲内で何とか市販の牛乳をと思い牛乳会社に交渉致し、13円50銭と云う安価な値で週3回飲用致しております。牛乳ビンで飲むたのしさからか、とても園児は大喜びです。栄養的にも不足の分は副食を考えて与える様に努力しています。又土曜日にはハミルトを1本飲ませています。

参考まで。

小川秀一(大阪市・天使保育園)

御苦労様です。

5月13、14日全私保連総会で共済制度採用がきまり大阪市でも加入準備中です。

6月19~21日全私連第11回大阪大会準備で大多忙第1日1200名をめあてに募集中

です。

市予算は昨年より少しよくなりました。
研修費12,000円と一寸上り。
幼児の顔みてくろう忘れさり。

黒田玲香(愛知県社協保育部会)

- ① 県(600万)市(300万)を10年間補助して県社協内の民間施設職員共済会にテコ入れをしてもらった。おかげで共済会の組織も機構も強化され、給付率が一段と改善されることになった。別送ニュースをご覧ください。
- ② 施設の振興資金を県から出資金6,000万増で1件につき運営資金50万、整備資金300万の貸出しを始めた。10年間無利子(但し手数料要)この制度のよいところは法人、非法人を問わないで貸付けるということ、小生の園もこれで漸く改築の目途がついた。
- ③ 職員の研修費(慰労金)1人年1万円を大中に増額するよう働きかけているが根本的問題として公私の処遇格差解消が必要なので、本年度の重点目標として運動したい。自治体からの助成は神奈川県が全国のトップ。だから県や市で神奈川の話をするとう神奈川は別格官僚社だといわれ、一寸追隨を許さんという鼻息の荒いところへお便りするの全く気がひける思いますが、少しでも近づきたいというので懸命に運動をしています。43年度の県市の保育施策の一端を上に記載しました。

長谷川愛子(小田原地区保母会長)

小田原市保母会便り

県下にさきがけて発足し、市当局及び保母会のご支援ご協力を得て、充実した今年度も下記のようなスケジュールを組みました。

主なものを報告いたします。

1 講習会

- ① 教養講座(時事問題)
- ② アコーディオン、リズム楽器、絵画造形の実技
- ③ 安全保育と自由あそびの指導について
- ④ 調理従事者の講習

2 研究会

- ① 保育内容研究会継続研究(幼児のしつけ)
- ② 保育従事者の現任宿泊訓練
- ③ 保育事業大会(5年・10年保母の市長表彰)

3 厚生活動

- ① 施設見学
- ② 県体育祭への参加(地元として特に協力)
- ③ 保育従事者新年のつどい
- ④ 会員等の慶弔見舞

4 其他

- ① 保母会総会(年1回)
- ② 役員会随時開催
- ③ 県保母会に代表者派遣、協力

長谷川愛子(小田原市・国府津保育園)

観光バスに乗るたびに「アリヤコライ・ローレスライ」とふしをつけて云った佐度の美しいガイドさんの明るい笑顔が忘れられません。

「鱈や小鯛いかがですか？」という方言だそうですね。

土地が変れば品変るとか、面白く聞いたこの言葉が旅をするたびに楽しかった思い出として浮んでまいります。先日行った仲のよいグループでの和歌の浦の新緑の旅は一入味深く、平素の重苦しい保育の研究の空気を離れ少しも疲れを感じなかったリクリエーションがせめてものいきぬきとなりました。

保母さん方に、たまにはこんな時が与えら

れたら……と。

保育を終えたひと時ふっとそんなことを考えた。

※ ママ ママト

職場にいそぐ姿追い
保母にいだかれ
うるむひとみか ※

生野隆彦(三浦市 二葉保育園)

三浦市民間保育園園長連絡協議会が結成され、本年度、市より1万円の助成金をいただくことになりました。園相互の交わりと職員の研修に必要な事業が少しは行なえるのではないかと期待しています。

私は園長3年目にして思うことは、宗教法人(個人を含)施設の園長は、いろいろな社会保険にさえ該当されず、社会的な身分保障のわびしさにむしろおどろいています。元来経営の自由がゆるされない保育所のやりくりはもとより、重大な責務に対するむくいのないことは、民間といえど公的 성격の強い保育所の今後の方向として、保母と合せて園長の社会的な身分保障が明確化されない限り、適正な運営も行なわれず、社会の要望に応えられるいい保育所は形成されないでしょう。

保育の問題から云えば、子供の本心は案外体のふれ合いから体験できる関係の世界を求めているものであると思われるが、幼児保育の従事者は保育技術はもとより、子供と体当りできる体の丈夫な人、そして陰のない心の豊かな人こそ適任者であろう。従って、内にも外にも資格の備った人の獲得の問題は個々の問題でなく、全体の問題として当事者は全体の立場から真剣に取り組むべきだと思います。

須合もと(平塚市・花水台保育所)

私が保育会の地区委員になりましたのは丁

度今から5年前でした。当時はまだ保育所の西も東も解らず全くの1年生でとてもお引受け出来ないと申し上げたのですが、たまたま長い間委員を引受けて下さった平塚保育園園長の富田先生が保育所の大改築をなさり当分は忙しくて出席出来ないからとの事で勉強をさせて頂くつもりで引受けました。以来4年間関東ブロック神奈川大会、新潟大会にも出席しほんとうにより勉強をさせて頂きました。毎月会に出席するのが楽しみで県内の諸先生方のお顔もどうやら覚えることが出来ました。ただ地区の方々には1人よがりて何日も連絡がおくれ申し訳ないと思っておりました。

今年の4月長くおりました須賀保育所から花水台保育所に勤務が変りました。新設のため、子供も職員も慣れずそのため御迷惑をおかけしてはと思っておりましたところ、あさひ保育園の河野先生が委員を引受けて下さりほっといたしました。

本来ならば諸先生方にいちいちお目にかかり長い間御指導頂きました御礼を申し上げなければならぬのですが、丁度、保育かながわが発行されますとの事ですので誌面をお借りして諸先生方に厚く御礼を申し上げます。長い間ほんとうにありがとうございました。今後共何卒よろしく御指導御鞭撻の程御願い申し上げます。

鈴木豊子(箱根町・仙石原保育園)

* 編集部への便り

初夏の候 泉先生にはお元気でお越しの事と存じます。

いつも色々とお世話になっております。又先日の関プロ大会下発表の際には助言を頂き有難うございました。この「らん」は記事ではなく御多忙の中を特に会のため編集をして下さりただ感謝の気持で一杯です。私達下郡の園長会は会合する機会も数少く縦横の連絡がないため井の中の蛙です。「保育かな

がわ」を見て、様子がわかる始末です。大体の様子は小田原地区より聞いているようなわけで他地区の園長会のあり方をおきかせ願いたいと存じております。

久保田律子(茅ヶ崎市・やなぎ愛児園)

* 保育者となって

初めて幼稚園に勤め出した時の事、そこは登園は保護者が責任持って園まで送って来て帰りは先生方が各方面に分かれて途中まで送っていく事になっていた。送って帰って来ると、自分の分担した方面の子供や親からの話に花を咲かせるのが常であった。そういう話では私も他の先生方に劣る事もなく話したことがさら周辺的事となると全然だめである。自分が送っていく方面の事でもあの店の向いには何があって、その隣は何で、という様な話になると、私の土地感は悲鳴をあげてしまう。子供を連れてくる時はけがのない様、子供と車のみているだけが精一ぱいなのだが、一人で園に帰る時位まわりの事を見て知っていてもいいはずである。いや、普通は意識しなくともそれ位はいつのまにか知っているものである。ところが私は知らないのだ。

早く園に帰らなければ園長先生が心配するので、それこそわき目もふらずに園に帰って来てしまう。考えてみると、それは私の性分の様でもある。

上手によそみのできる人こそ、同じ物を見ても、より多くの事を見逃がす事なく吸収できる人なのであろう。保育者に最も大事な融通性を思いがけない事から発見して以来、私はよそみも適当に上手な人間になろうといつも心掛けてはいるのですが……。(何年前の私のつたない体験話です。)



柳瀬劫子(県保母会長)

* 遠藤保育園長・桑野侍至子先生への便り
俄に初夏の日ざしとなりました。お元気に御精進の事と存じます。去る6月3・4日と伊香保、観山荘に於ける関プロ連絡会議に出席しました。其節東京の畑谷光代先生と同室でした。会議の余暇に雑談の折東京都から出版された、保育所の運営管理の手引書に、園の飼犬の飼料は保育教材として認めると記されてあるとの話には私は思わず膝を乗り出しました。それはもう10年も前かの私共の園の県の登察指導の時元帳を調べておられた婦人指導員がクツクツと笑い出されたのでどうしましたかとお尋ねしたら、これと言って指さされたのは支出欄にルウ犬の飼料としてなにがしか園長が記載してありました。園長は犬は園児の生きた友達であり番犬である事を主張して雑費として支出すると主張しました。

畑谷先生の園にも親子三代の園犬がいる由ですが飼料に就て都がとやかく言ったのでこれこそ園児にとって生きた教材だと主張、力説された由で都が認めたと言う事でしょうとの事でした。園児の(友達番犬だ)と言うより(生きた教材)と言うことが効果があったとすれば、言葉の表現は今更むつかしく大事だと痛感しました。

田頭晴弥(横浜市・金沢愛児園)

“姿勢を正す”という言葉がいろんな場合に流行語化して使われているが、多くは相手の非を責めたり咎めたりするような場合に使用されているようだ。「他人の振り見て吾が振り直せ」というから「みんなそうだから私も」ということかも知れないが、本当は、「みんなはどうだろうと、私は私」ということが“姿勢を正す”本来道ではなからうか。

他を責めることばかり厳しくして、自分を律することの寛厳さを忘れ勝ちなのも、戦時

戦後の権力嫌悪、社会不信慣行からかもしれない。しかし、次代を背負う児童に期待し、将来に大きな夢を託す私共は、矢張り先ず、自分の姿勢づくりをしなければなるまい。児童と私とは相映の鏡である。履物の整頓、職員同志の挨拶、園児との対話、父兄との応待など、日常行動を心をこめて行なっているかしら。身についた生活態度となっているかしら、脚下照顧、脚下照顧。

船田松代(川崎市・高津保育園)

川崎に赤ちゃん保育が始まったのは36年6月。石の上にも三年といいますが、開園以来メンバーチェンジもなく丸三年が経ちました。やっと軌道に乗ったところで、看護婦さんが出産の為、栄養士さんが結婚、年のいった保母さんは家庭保育を、そして又少し経った頃園長先生の退職、若い保母さんの転勤、42年に私も転勤でオバチャン一人が現在残っています。

底ぬけに明るかった仲間、苦しさ、淋しさ、喜びを肌で感じ合った仲間です。

7年経った同じ6月、逢うことになりました。唯一の独身者のOさんも今秋結婚します。

再会の日には、さぞや、昔々の失敗談、子供の成長、消息等々……。想像するだけでもにぎやかになりそうです。

逢いたかった逢いたかった仲間達です。お互い年を忘れ、語り合うことだと胸をうずうずしています。

井上雅夫(小田原市・福祉事務所児童係長)

「児童福祉法施行20周年記念児童福祉大会」に出席しての所感

我が国の児童福祉は戦後、児童福祉の理念にもとずき本法が施行されて満20年にあたり児童福祉大会が皇太子・同妃殿下ご臨席の

とに盛大に開催されたことは私ども関係者としても喜ばしい次第である。出席して感じたことだが高価な物もほっておけば扱いものにならなくなってしまう。「弘法は筆を選ばず」という諺もあるとおり、法を運用するのもその精通した人でなければ痛感した。施策は政治、行政の生きものである。大人もくたびれると3才位の精神年令になるという人もあるが、これでは名器(子宝)がなくてであろう。児童福祉施策は生きていなければならないものであると信ずる。関係当局者は児童福祉法の運用に一層傾注して努力されることを望む。

児童は日1日と成長しているのだ。

明日では遅すぎる。

大竹律子(逗子市・双葉保育園)

双葉保育園の顔／＼顔／＼顔／＼

最近当園では職員の数も増し、只今のところ園長、保母、給食係その他で計10数名をかぞえる程になりました。

年令層も巾が出て、様々の趣味、特技を活して毎日をもたのしくすごしております。昨年頃より数を増した若き面々、豊かな戦後の教育をうけて音楽、美術、工芸の類、園芸、読書等の趣味をたのしみながら、ピアノに童話研究その他を学びながら、多忙をきわめているし、中年層の保母は目下のところ家庭では子弟の教育に専念中で好きな、手芸も、読書も余り出来ないが、我が子弟の教育より得た体験と理論によってよき保育を念願としてはげんでいます。保育界の10年選手達はあと一歩で家庭に入る様な体勢をして多趣味中の園芸や、昆虫を集めて子供達の情操教育科学教育、その他に余念がなく、新しいすばらしい図鑑がほしいとささやいています。老眼鏡をかけはじめた老境に入った保母もレコード鑑賞したり、書、画をたのしんだり、若い気分ではいてもやっぱり年よりくさい趣味を楽しみ味っていますがよいレコードが欲しい、よい墨や筆が欲しいと望むことも若さを求める

心と信じます。甘い匂いにさそわれて給食室に足がむきました。給食係の方々の言、若い頃は読書も手芸も好きだったが、今では毎日美味しいものを作るので精一杯ですよ、とこちらの問いには気のりせぬらしい。大きなお鍋の中にクタクタと、胸がいっぱいになりそうに豆が煮立っている。それを食べる時には子供達と一緒に舌つづみをうつのが不思議な魔術。園長は民族人形に凝り出して21ヶ国位集ったとか、昨年はカクテル教室に通って忘年会にはいとも珍味なカクテルを馳走して甘酸っぱい顔をされました。とにかく、多種多様なたのしい保育園です。ご来園あれ、カクテルをご馳走します。

井沢由紀子(逗子市・双葉保育園)

「伊豆下田遊台寺における逗社協研修会に参加して」

6月1日、2日と2日間に亘る逗子社会福祉協議会主催による研修会に参加させていただいた。1日5時半頃遊台寺国民宿舎に所長さんをはじめとしての一行15人が顔をそろえた。所長さんの御挨拶の後夕食をとり、後に贈物の交換が行なわれた。おなじみの童謡の歌われる中で、各目は歌がとぎれるたびに自分の贈物を受け取りどれも嬉しい贈物に心ははしゃいでいた。2日の日曜日はバスで市内の名所巡りをして回った。京都や鎌倉の様なずっしりと重い日本的な歴史を感じることは少なかったが、やはり下田らしい西洋的な歴史の重みを強く感じた。唐人お吉やハリス初代駐日総領事の動く様子が浮かぶ様な錯覚にとらわれた。白浜海岸の砂は美しく、近くに海をもつ私達でさえも指の間からさらさらとこぼれ落ちる砂には素晴らしい、その感触を忘れることは出来ない。再び訪れてみたい下田の一景である。そして、この白砂を園の砂場に入れてあげたらどんなにか、子供がめずらしがり、そして喜ぶことかと話し合った。下

田名所巡りを終えて、2時近くに下田を立ち帰路に向った。社会人となって初めての宿泊研修に参加させていただき感謝している。

全国私立保育園連盟

(ノ切をすぎましたが、もし間に合いましたら)

神奈川のみなさん、いろいろと御苦労さまです。全私保連では恒例の全国研究大会を今年6月19～21日の間大阪で開きます。テーマは「私立保育園の果すべき役割」。現行制度のもとでは、私立保育園は、公立保育園の不足を「量的」に補完する役割しか与えられておりません。さらに保育内容に関しても、官製の「保育指針」が押しつけられるという傾向が今後ますますつよくなることも予想されます。しかも、老朽園舎改築については、個人立の場合はその公的保障は全くなく、法人立の場合といえども、自己財源の不足、返済金のねん出のために大変な無理を強いられています。加えて、保育予算のしめつけは来年度はいっそうきびしくなるであろうことは目にみえています。このような現時点において私立保育園の果すべき役割をあらためてお互いにつきとめ、確乎たる何ものかをつかみ団結して奮闘してゆかねばならぬものと存じます。一言して「自主的・創造的保育」の実現をめざして一。

今後とも、みなさんとの結びつきをいっそうかたくして、一歩でも二歩も保育問題を前へすすめてゆくためにちからを合わせてまいりたいと深く念ずるばかりです。

(全私保連広報部長 三輪生)



編集雑記帖

▽……雨つづきの5月。好天つづきの6月。例年にない天気の不調に、遠足などの予定がすっかり狂わされた園が多かったのではなかったろうか。

▽……今回は、県保育大会の報告と「一筆交かん」の特集の二本立てである。内容を豊富にするという意味からは、長野での関東ブロック大会の様もぜひ付加えたかったのだが編集子の都合が7月に新築落成をするので、それにとまなう仕事に追いまくられそうなので、早目に刊行し、責任を一応はたしたいので、こういう処理をした。また、ハガキアンケートを寄せられた方々のユニークな内容が、色あせぬうちに印刷したいという気も働いた。

▽……6月10日〆切のアンケートに対し、黒田満子（茅ヶ崎）さんが1ばん乗りの5月25日着。つづく2ばん3ばんは県外の小川（大阪）黒田（名古屋）の両氏であった。両氏はそれぞれの地域ではもちろん全国的スケールにおいてもエネルギーな活躍をなさっておられる。そういう方のいぶきにふれるのも大いに刺激になると思い、ご面衝をわずらわしたら、打てばひびくような折り返しのご返事。さすがである。

▽……井上雅夫氏（小田原市福祉事務所）は「まだ間に合うか？」というデンワをかけてくださった。全社協、全私保連、日保協など団体から無解答。とあってガッカリしながら原稿を印刷所へまわしたあと、ヒョッコリ全私保連からのハガキ。次回には、日保協、全社協からも期待したい。

▽……それはともかく、会報が会報としての役割をまっとうに果せるようになるには、もうしばらく、じっくりと努力をする必要を痛感しているしだいである。

▽……児童福祉法施行20周年をも記念して15年以上勤続者に感謝状が贈られたが、その数109名。ご苦勞様を上げたい。感謝状贈呈終了後、2、3名の万の感想を伺ったところ「昔にくらべて今は楽ですよ」という言葉がはねかえってきた。いまから10年前15年前は受持人数にしる、給料にしる、保育時間にしる、今よりも大へんだった。そういう大へんさを当り前のものとしてうけとってきた。それにくらべると……。

▽……いうまでもなく、いまの若い人たちの仕事へのかまえに話がおよんでいった。ここで、そのことをあげつらう気はないし、その必要もないと思う。ただ、たしかに、経験をつんできた人とそうでない人、若い人と先輩の間に「差」はある。そしてその差ばかりが目につきやすいが、問題は、両者のつながりをつかみあうことが、大切だと思う。つながりを探るべき所を、「差」があることに力点をおくと分裂になる。これでは、共通の利益を高めていけないのではなからうか。

▽……ここで思いたすのは、県大会における津田知事の発言である。民生部長 → 総務部長というコースを辿った人だけに、通りいっぺんでないあいさつだった。そのなかで「第2回県大会」とカンバンにうたっているが何かの誤りではないか。あるいは、新たな発想のものと組織であるのかそれはしらないが……というくだりがあった。このことばをきいた時、さりげない話し方の中に痛烈な皮肉を感じた。児童福祉法施行20周年目なのに、県大会がたったの2回。そんなまとまり方で何ができるんだろう。それを知事が指摘したのではないかと。実は、何人かの人たちにたしかめた所、大筋において、この知事発言からみんな何かを感じていたことがわかった。

▽……こういうふうに見てくると過去のこととはともかくとして、これからは、いままでのような状態ではすむまい。また、大会のもち方にしる、大会を開催するまでの企画・準備にしるわれわれ会員が、望月委員長にのみ、

たよっていは、委員長は疲れるばかりである。大会準備委員長と委員会でも設けて、企画立案にあたらせるような分担制をとりながら、保育会委員会で全体の動きを集約するような組織化＝組織体制づくりを考えないと、県内の空気がゆるんでしまいそうに思える。

▽……県保育会と県社協保育分科会との関係を明確にすること（それは横浜市との関係を明確にすることにもなるが）、さらに保育会の財政の確立などなど……。第2回大会開催時には、43年度の会費は一銭も集ってなかった。それなのに大会という経費のかかる行事をしたのだから、会計係の苦勞は大へんだった。役目を引受けた人だけが心配しヤリクリをしているようではいけないだろう。

▽……どうもいいたいことを言いすぎた雑記帖になった。まとはずれのこともあるかもしれない。しかし、必ずしもデタラメをいったつもりはない。要は、もっと生き生きとした神奈川にしたいということである。そのために、この会報はどうあったらよいか。

▽……第6号をだすところまで、やっと問題をつかめたという思いである。あせらずに、この問題を自分なりににつめながら、さまざまな場面で、さまざまな問題を論じあい考えあいをつづけていくなかでしか、この解決はえられないのかもしれない。そんな思いをいだいて、関東ブロックをかい間みてこよう。

（843・6・13 泉 順・記）

保育かながわ・第6号

印刷日 昭和43年7月5日
発行日 昭和43年7月10日
題字 内山岩太郎・書
発行人 横浜市神奈川区桐畑14
神奈川県社会福祉協議会内
神奈川県保育会
委員長 望月正道
編集人 神奈川県保育会編集委員会
(代表) 泉 順